

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472900719
法人名	有限会社 ぱすてる
事業所名	どんぐり庵
訪問調査日	平成20年10月8日
評価確定日	平成20年11月19日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 10月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	第1472900719号
法人名	有限会社 ぱすてる
事業所名	どんぐり庵
所在地	神奈川県厚木市飯山2237-9 (電話) 046-243-1030

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年10月8日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 5日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 2月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	26人	常勤 6人	非常勤 20人	常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	(準防火地域木造2階建)造り 2階建ての (1)階 ~ (2)階部分
------	---------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	53,200 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 184,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	320 円
	夕食	450 円	おやつ	70 円
	または1日当たり 1,040 円			

(4) 利用者の概要 (9月5日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人コスモス 米澤外科内科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは厚木市の北西部に位置し東京工芸大学の西側の閑静な住宅地の中にあります。近隣に大きな竹林もあり、自然に恵まれた環境にあります。地域住民との交流も盛んで大人ばかりでなく子どもたちとの交流もあります。また、行事の際には利用者を中心に撮影されたDVDなども作り、家族等に送っています。

当ホームの特徴として医療に対する対応がきめ細やかです。日々の健康管理に加え、医療連携体制加算を行い、連携医療機関との24時間体制も構築されています。また、契約時に「重度化における対応(看取り)指針と同意書」を結び重度化した場合や終末期のあり方について当ホームの対応指針を明確にしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善課題は 運営に関する家族等の意見の反映 職員を育てる取り組みの2点でした。 は、アンケート箱を用意し、家族等の訪問時に要望・意見等を聞き、重要と思われるものは記録に残し運営に反映させるようにしています。 は、職員が外部研修に参加する機会が大幅に増え、改善されています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員には会議などで評価意義や必要性を説明し、自己評価を全職員で分担して作成しました。そして、サービスの質の向上に向けた取り組みがなされています。また、評価を通じ鍵の掛けない工夫や災害時の対応等が話し合われ、具体的な改善に繋がっています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>当ホームでは運営推進会議の開催に意欲的であり、家族をはじめ市の職員、自治会長、民生委員も参加しています。ホーム側は写真を使用し活動内容を報告するなどの工夫を凝らしています。また、参加者から防災に関する意見が出され避難方法の確認や飲料水等の備蓄をするきっかけになりました。また、ホームとして地域に貢献できることなども話し合いが行われています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族へは広報誌「どんちゃんダイアリー」や毎月利用者ごとに「ご様子お知らせシート」などで日常生活や健康状態を報告しています。また、玄関近くにアンケート箱を用意したり、家族の来訪時に意見等を聞くようにしています。家族からの意見等は朝のミーティングを通じて職員に伝えられ、重要と思われるものは全体会議で話し合いがなされています。行事に対する意見などはホームの運営に反映されています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>主として自治会を通じ地域との交流に努めています。自治会の行事(夏祭り、防災訓練等)に積極的に参加し、また、当ホームの年末の忘年会には舞踊、フラダンス、浄瑠璃などが地元のボランティアの人々によって行われ、地域の人々も参加しています。当ホームでは地域住民との交流を積極的に行っています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームの理念に「今までのあなたを認め、これからのあなたも大切にしていきます。」というものがあります。この文面から、「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」をイメージし、日々ケアを行っています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関近くに理念を掲げ、いつでも職員の目に触れるようにしています。また、新任の職員には、採用時研修で理念を解り易く説明しています。現任の職員には折に触れ、毎月のミーティングなどで共有化を図り、日々のサービス提供に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	主として自治会を通じ地域との交流に努めています。自治会の行事(夏祭り、防災訓練等)に積極的に参加し、また、当ホームの年末の餅つきには地域の人々も多数参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上に向け、職員には会議などで評価の意義や必要性を説明し、全職員が自己評価作成に携わっています。また、評価を通じ鍵の掛けない工夫や災害時の対応等が話し合われ具体的な改善に繋がっています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームでは運営推進会議の開催に意欲的であり、写真を多用して活動内容を報告するなどの工夫を凝らしています。また、参加者から防災に関する意見が出され避難方法の確認や飲料水等の備蓄をするきっかけになりました。このように会議を活かした取り組みも行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議、厚木介護事業所連絡協議会などで市の担当者を通じ、密に連絡を取り合っています。また、当ホームのことで知ってもらい、必要に応じて気軽に担当者と話し合う関係が構築されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりなどを写真撮影したものを豊富に使用した「どんちゃんダイアリー(広報誌)」を年2回発行しています。また、個別には家族等の訪問時や毎月の手紙で健康状態や金銭に関する報告等行っています。訪問の少ない家族等には電話で報告しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関近くにアンケート箱を用意したり、家族の来訪時に意見等を聞くようにしています。家族からの意見等は朝のミーティングを通じて職員に伝えられています。また、重要な内容は全体会議で話し合い、ホームの運営に反映されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームとしては、異動は出来るだけは避けるように努力していますが、現実には避けることはできません。異動については家族には報告してませんが、個々の利用者の特性を見極め、必要に応じて説明するなどの配慮を行っています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、新人の場合は採用時1ヶ月以内に当ホーム独自のレジメを使用し、採用時研修を行っています。現任の職員の場合は、主として神奈川県や厚木市のグループホーム協議会主催の外部研修に参加しています。緊急性のあるものは、その都度社内勉強会などで対応しています。		職員は研修案内を見て研修に参加していますが、職員の経験や習熟度の段階に応じた年間計画に基づく研修計画(外部・内部)や職員の達成度合いがチェックできるような仕組みが期待されます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚木介護保険事業連絡協議会や県央グループホーム協議会にも加入し、同業者と交流を行っています。管理者ばかりでなく、職員同士の相互交流も行っていて、これらの活動を通じサービスの質を向上させる取り組みを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員や他の利用者、ホームの雰囲気などを知ってもらうため入居前には本人も含め見学して貰っています。また、管理者、職員は利用者本人に必ず面談し、本人が安心してホームに来られるように配慮を行っています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は一緒に散歩したり、文化的行事の由来の話や郷里の話の聞いたりしながら、利用者職員間で信頼関係ができるようにし、共に学び支えあう関係を構築しています。また、職員は利用者の話を遮ることなく傾聴することを心がけています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活歴、経歴等は、アセスメントシートに記載され日常生活の支援に活かされています。また、日々の会話や家族との関わりの場面なども詳細に記録し、一人ひとりの意向や希望を尊重できるよう職員間で話し合いがなされています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>運営規程に記載があり、『利用者の立場に立ったサービス提供』を常に心がけ、個別支援がなされています。介護計画の作成については、職員間での話し合い、利用者・家族の意向を聞き取り、計画に反映しています。そして、利用者ニーズ、様子を日々観察し、支援方法について話し合い、質の高いサービスが提供できるようにしています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月必ずケアプランチェック表にて、利用者・家族の要望・意見等をふまえた計画を作成し、『利用者本位のサービス提供』が出来るよう職員間で意見交換を行います。また、利用者に変化が生じた場合、必要に応じ医療関係者とも連携を取り、計画を見直し、職員間で情報の共有が図られています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況、ニーズを把握、柔軟に対応しています。食事提供について、訪問栄養指導も取り入れた個別支援もなされています。ミニデイ・地域の行事などの機会を利用し参加しています。介護保険内外のサービスを提供できるよう情報収集を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつ医療機関を最優先し、継続利用を行っています。また、協力医療機関の受診には、職員が付き添い具体的な症状など説明がなされ、受診結果を必ず家族へ報告しています。その他に、月2回の往診と、訪問看護が週1回と、24時間連絡がとれる体制ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に向けて、『重度化における対応(看取り)指針と同意書』により利用者・家族へ説明し同意が得られてます。主治医と連携し可能な限り、利用者・家族の意向を尊重しています。利用者のケア方針について、職員間で話し合い、情報共有できるよう体制が整えられています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者・家族へは『秘密保持に関する誓約書』に基づき、説明・同意が得られています。職員間では、ミーティングにて適正表現について話し合いが行われ、利用者を尊重した声かけ、対応、配慮がなされています。記名物などの取り扱いについてもプライバシーに配慮しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で一人ひとりの生活リズムに合わせた支援を行っています。職員の都合に合わせるのではなく、利用者のペースに合わせた支援を行っています。夜間は、個々のニーズを尊重し、柔軟な対応ができるようにしています。職員間でもフロア会議等でも、共有できる仕組みがあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力が発揮できる活躍の場面を作り、食事の準備・調理・盛り付け・配膳・後片付け等を行えるよう支援しています。職員は、コミュニケーションをとりながら食事が楽しめるよう配慮しています。また、一人ひとりの嗜好を把握し、別メニューの提供も行い利用者に喜ばれています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、全員が入れるよう予定表を作成しています。時間帯については、利用者の意向やニーズに応じた支援を心がけています。また、一人ひとりの清潔習慣や、羞恥心、プライバシーにも配慮し、介助方法については、その日の気分や体調に応じた支援ができるようしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしが楽しめるよう一人ひとりの生活歴に配慮しています。食事の支度、掃除、洗濯や、歌など職員はコミュニケーションをとりながら一緒に行っています。また、気晴らしができるようになるべく一日1回、外出できる機会を支援しています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に添えるよう対応しています。具体的には、買い物、散歩など職員は、一緒に外出できるよう配慮がなされています。その時々利用者の状態や意向を踏まえ、出来る限り事業所外へ出られるよう支援がなされています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、出来る限り玄関等に鍵をかけないようにしています。その日の利用者の意向や様子を把握し、職員間で鍵をかけないケアについての対応方法や利用者の気分転換等が図られる支援方法について話し合いがなされ実践されています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えた備品(飲料水、非常持ち出し袋等)を準備しています。また、マニュアルを作成・掲示し、避難訓練を年2回行っています。そして、地域の防災訓練にも参加し、運営推進会議・自治会でも話し合いがなされ、地域住民、警察署、消防署等との支援体制を築いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は減塩・捕食・形態別・減量などの支援を行っています。日々、利用者の身体状況を記録し、を把握した上での対応ができるようしています。利用者一人ひとりの状態に応じたきめ細やかな支援ができています。訪問栄養指導を受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分については、木目調で落ち着いた雰囲気を作り出しています。また、家庭用の家具を置くことにより、緊張感を緩和できるよう工夫がなされています。食堂には季節の花や、玄関には季節の行事の写真が飾られるなど、利用者が居心地よく過ごせる配慮がなされています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活を配慮し利用者、家族の意見を尊重しています。具体的には、使い慣れたベッドや布団、タンス、敷物、テーブル、書物などお持ちいただくようになっています。また、家具等の配置を同じにしたり、利用者が、馴染みの環境で居心地よく過ごせるよう配慮がなされています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームどんぐり庵
(ユニット名)	みみお
所在地 (県・市町村名)	神奈川県厚木市飯山2237-9
記入者名 (管理者)	住谷 博実
記入日	平成 20年 9月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が住み慣れた地域の中で最期まで生活が送れるような理念作りをし、ホームの玄関に掲示している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時にかみくだいて話をし、日常の業務においてもミーティング等で基本に戻るよう話をしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域の方からの問い合わせには時間をかけておこなっている。また、見学も自由にしていただいている。	
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関先に花を植えたり清掃を行い、気軽に訪問しやすい環境を整えている。近所の散歩をする時にはあいさつをしたり、年末のもちつき行事の時には近隣住民にも声を掛けている。また、野菜の育て方について入居者と一緒に、住民に尋ねることもある。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の夏祭りでは、子供御輿のホーム訪問や、夜の祭りに参加して交流を深めている。どんど焼き、ミニデイなどの地域行事にも積極的に参加し、また地元の人々の協力を得てつながりを持つことができている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を利用して、自治会や包括支援センターと協力して、認知症の勉強会が開けないか検討している。また、地域の行事に独居で参加できない高齢者を迎えに行ったりといった支援ができないか検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の低下を防ぎ、さらなる質の向上につながるように、全職員で自己評価に取り組み、現状を見つめ、課題を洗い出し、ミーティング等で具体的な対応策について検討している。サービスについて総合的に、客観的に見つめ直せる機会として、有効に利用している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を資料に掲載し、ホーム内での活動について報告をすることで、参加された方が理解しやすいように工夫をしている。最近では防災に関して意見を頂き、飲料を用意したり、避難方法の確認等を行なった。また、地域の方に認知症の特徴について知って頂く活動を協力して行なう予定である。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の研修会に参加したり、運営推進会議以外でも担当者と話をする機会を持つことは出来ている。それによりサービスの質の向上に取り組んでいると思う。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修やミーティング等で学ぶ機会はあるが、具体的な活用には至っていない。入居前は独居であった方もいるので今後は具体的に検討していきたい。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で高齢者虐待防止関連法について学んでいる。また、事業所内での言葉の使い方等、虐待につながる可能性のある対応についてはその都度個別に指導している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の時も時間をかけ理解していただけるように説明をおこなっている。一方的に話してしまうのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するように配慮している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時の職員とのやり取りを記録に残している。また、ご意見シートで寄せられた意見や外部評価のご家族アンケートの統計等を利用し反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年2回のどんちゃんダイアリーという活動報告書を家族へ送っている。また、健康状態や金銭に関しては毎月書面にて報告を行なっている。電話連絡、面会等も適宜利用して報告を行なっている。職員の異動に関しての報告は行なっていない。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時にはできるだけお話を聴くように心がけている。その中でお聞きしたことは朝のミーティングで職員にも報告し、重大な事項に関しては全体ミーティングで話し合うようにしている。それらは記録に残しその後も活用できるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心がけている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せるように細かいことは言わず見守るようにしている。また、提案等があれば積極的に採用している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日ごろより人員を多く当てるようにしている。他、土日やイベント時には職員を調整し対応している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>3年半が経過し長く勤務される職員が増えてきた。日ごろから異動や離職が最小限になるよう努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れたいと感じていることです。外部評価の事項にも職員全員が取り組めるようにし、他研修にも参加を促し対応している。現在OJTについてプログラム作成中。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の集まりなどにも積極的に参加している。管理者だけでなくほか職員も参加できるように配慮している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日ごろよりよく話を聴くようにしている。食事に行く機会をつくったり、その月の休みの希望もできるだけ添えるように配慮している。普通の勤務でも休憩を取れるようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全体ミーティング等に出席し勤務態度や日ごろの様子を把握するように努めている。その中でそれぞれがやりがいを持って仕事に望めるように工夫している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者、計画作成者、フロア担当者などが入居前に必ず本人と会い話をうかがっている。情報シートを作成しアセスメント等も事前に職員が見ることが出来るようにしている。入居後もかわりを持てるように積極的にコミュニケーションをはかっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談や問い合わせには十分時間をとっている。出来ること、出来ないことをしっかり信頼関係を作り、後のトラブル防止にもつながると考えている。それらは情報シートにも盛り込んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	月に平均1～2件程度入居の問い合わせ等がある。電話での相談や直接見学に来られることもあるが入居希望をされている場合など他施設の空き状況を確認したり、状況に応じては有料ホーム等へ問い合わせをすることもある。当ホームに入居とならなくても相談に応じ、対応するように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的にはご家族から説明をしていただいたうえで入居されているが、必ず入居前には本人にも会いお話をうかがいなるべく知っていただくようにし安心してホームに来ることができるよう配慮している。入居前の見学も自由にさせていただいている。その方によっては入居後のご家族の面会を頻繁にしてもらったり電話をすることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除、草花の手入れなどそれぞれの方が出来ることを発揮できるかかわりを持つことを心がけている。その中で職員が教えてもらうことや逆にねぎらってもらう場面もみられる。不安やこだわりなども「不穏」「混乱」という言葉に片付けず、なぜそう思っているのかなど丁寧に理解するように努め、結果共感できていると思われる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居までの経過やその後もどのような思いを抱いているかなどを日頃の会話のなかから知るように努め、思いを汲み取るようにしている。特に状態の変化があるときなどはこれからの生活をご家族と共に考え、ご家族からの支援を本人が受けられるよう配慮している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの生活のなかでご家族が役割として、してこられたことはホームでも引き続きかかわりを持つことが出来るように配慮している。ご家族との外出は自由にさせていただいたり、日常のケア(嗜好の支援等)にも参加していただいている。日頃の様子についてもお知らせシート等を配布し伝える努力をおこなっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に訪問や連絡をとりやすいように配慮をしている。また、お手紙や贈り物のやり取りでは必要に応じてお手伝いをさせて頂いている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士がお互いに声を掛け合い、関わりを持たれている。感情のすれ違いが生じると、当事者同士もしくは周りの入居者様の発言、相槌が加わることで関係が修復されることもある。時にお互いに誤解され対立されてしまいそうなる事もあり、職員が間に入り、誤解が解けるよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在はサービス終了後に継続的なかかわりを必要とされている方はいらっしゃらない。今後対象となる方には近況を知らせることや、相談できる場として活用していただけるようなかわりは持ちたいと考えている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の支援を通して一人一人が好む環境や場所を把握しそれぞれに合わせた環境作りや気分転換の支援をおこなっている。また、散歩やドライブ等もその方に応じて計画し参加できるように配慮している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に聞き取りされた生活歴や、経歴等情報収集された資料に目を通し把握に努めている。入居後も本人との会話やご家族とのかわりの中から一人一人のことを知るよう努めており、実際にご家族との会話からその方がとる行動のヒントになることも得られる場面はみられる。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	言動・表情等観察し、趣くままの行動を見守り、現状の把握をすると共に記録に残している。生活に必要な仕事(家事等)は、出来る限り皆様にさせて頂けるよう様子を見ながら行なっている。今までしていなかったこともチャレンジしてみることが心かけている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望やご家族の意向を踏まえ関係者からの情報を照らし合わせ、ケアプランに反映しているため個別のプランができていると思われる。日々接する中でも本人の思いや希望の把握に努め、面会時やケアプランをお渡しする際にはご家族にも意向などをうかがっている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回モニタリングを行い、状態等の変化が生じた場合は、ご家族と相談することや職員ミーティングで話し合い見直しを行っている。更新時は必ず職員からも意見を聞くようにしている。また必要時には医療関係者からの助言ももらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記した個人記録やバイタル(体温・血圧)、排泄、食事、水分摂取状況を誰が見てもわかるように記録に残している。それらの記録は日常のケアやプランに反映できている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービスを利用した例はないがミニデイや地域の行事へ参加するなど生活エリアがホームだけにならないよう支援している。他介護保険サービスについては必要時に提供できるよう情報収集をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議や地域の行事等を通し連携を図っている。日頃からコミュニケーションを図るよう努力している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者との連携を図っており、今後必要に応じて利用できるよう準備は行なっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、個別のケースについて協同は行なえていないが、運営推進会議を通して、ご指導をして頂いている。また、地域に向けての活動を行なう予定ではいるが、未だ具体的に取り組めてはいない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常の場合は協力医療機関へ受診。ご家族の希望や協力医療機関では対応しきれない場合は、他の医療機関へ受診。協力医療機関へ受診する場合は、職員が付き添う。その場合は、その日のうちに家族に受診の結果を報告。他の医療機関に受診する際は原則的に家族に付き添っていただく形で合意を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在特に認知症専門医との協力関係は持っていないが協力医療機関において相談することはある。職員も勉強会や研修に参加し知識の向上に努めていきたい。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者様の体調に異変がある時は、時間に拘わらず速やかにNsに連絡し、指示を仰ぐようにしている。入居者様の健康管理において不安や疑問を感じた時は気軽に相談できる関係が築けている。今後も充実させたい。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関に入院される場合、日ごろから受診や往診を通して接点があり、情報交換はスムーズに行えていると思う。他医療機関へ入院する時は介護サマリー等の準備をおこなっている。退院については担当医師や看護師、ご家族と相談し体制を整える等の準備をした上で受け入れている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	可能ならかかりつけ医からご家族への説明時に同席させていただき状態の把握をする。その上で今後、どこでどのように過ごしたいか等ご家族と話し合いの場を設けている。そのときに事業所でおこなえること等の説明をし、話し合った内容に関しては他職員にも共有できる場を設けている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態の変化があったときはかかりつけ医からの情報を基に状況を伝えホームでの生活が可能であるか職員全員と話し合うようにしている。事業所でできること、職員がおこなうことをその都度明確にし関わっている。今後、ターミナルケアの勉強会も定期的におこなう予定でいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	この1年で住み替えをした方がいらっしゃらないが過去に特養へ移られたときにはサマリーの作成や担当者との情報伝達を密におこない生活の継続ができるよう支援した経過がある。今後も住み替えが生じた時はおこなうようにしていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常の家事等を依頼するときやトイレ・入浴の案内をする時は出来る限り本人のプライドを傷つけないように配慮している。他記名物などへの取り扱いにも注意している。これまでも第三者に個人情報を漏らすことはなかったが外出の際も他人がいるので言葉かけには気をつけていきたい。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>希望や自己決定を自主的に表すことは難しくなっており、それぞれに関わる中から引き出すようにしている。一緒に買い物に行って品物を選んでもらったりお金を払うこともある。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日のおおよその流れは決まっているがその日の入居者様の状況に応じて柔軟に変更するよう配慮している。特に夜間は好きなテレビを見たり時には一緒におしゃべりをしてお茶を飲んだりとその日の状況に応じて時間を設けることが出来ている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>髪の毛の伸び状態を見ながら美容院・理容院へカットに行っている。基本的には本人の好みに任せているが選択できないときは好みを把握しその方なりのおしゃれが出来るようにかかわっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備段階から出来る限り一緒に行っていただくようにしている。職員は入居者様と同じものを食べ食事介助や言葉かけをおこなっている。ただ介助が必要な方を中心に一緒に食べることが多いので他の方とも食事できるようにしたい。好き嫌いを把握し、お嫌いな物がメニューの時は別メニューを考えお出ししている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコを吸う入居者様には希望時に支援している(最近は禁煙している)。好きなおやつや飲み物を考えて出している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表をつけることで一人一人の間隔を把握すると同時に、言葉だけではないサインを察知しトイレに案内できるように心掛けています。失禁等についても安易におむつをつけることのないように案内の工夫などをおこなっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状は曜日を決めて行っているが、時間等はその方の希望に添うように対応している。入浴中は日頃話せないことなど話したりできるように配慮している。入浴拒否の強い方に関してはさりげなく案内するなど様々な工夫をするようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠についてはしっかりとれるように昼間の活動を充実できるように工夫している。疲労が見られる時などは短時間の休息をとることはあるが昼夜逆転にならないように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として食前のテーブル拭き、盛り付けから食器洗いまで自主的にやろうとする気持ちを見逃さないように声かけしおこなってもらっている。歌好きな方には一緒に歌う時間を持つなど得意なことを活かせる配慮もおこなっている。出来る限り一日一回は玄関前でも外に出ることが出来るよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人に代わって小遣いとして施設が預かり保管してその都度必要なものを買っている。一緒に買い物に行くときは財布を持ってもらうなどし、買い物に来ていることを意識できるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食料品の買い物や個人の買い物に出かけるようにしている。車椅子の方でも車の利用などにより外に出る機会を設けるようにしている。なじみの場所まで行くことはできていないので今後は支援できるようにしたい。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日や記念行事の時に遠出したり、ご家族にも参加していただくことをおこなっている。今後は個別にも支援していきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親しい人への年賀状を出す支援をしている。本人に手紙などが届き読むことが出来ない場合などは「～さんからですよ」などとわかるように支援している。年賀状に限らず季節に応じた手紙などのやり取りが出来るようにしていきたい。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間を設けているがいつでも気軽に訪問していただけるように配慮し、心地良く過ごせるように工夫している。その方によって居室で過ごしたりフロアで皆様とお茶やおしゃべりをしたりと自由に過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを用意し、全員が読みどのような行為が拘束にあたるか理解している。外に出ていく方もいらっしゃるが危険のないように見守りをしつつ、出来る限り自由に過ごしていただけることを工夫している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間や天候によって玄関の鍵をかけることはあるが常態化はしていない。基本的に施錠せず外に出そうな気配を察知し一緒に行くことや見守りをしながらなるべく鍵をかけないように取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にフロアに職員がいるようにし記録もフロアで見守りをしながらおこなうようにしている。夜間に関しても居室に入りつきりにならないように工夫している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状況を踏まえ、火気や刃物の扱いを決め使用したら指定の場所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒時の対応などはマニュアルにしている。月ごとにヒヤリハット報告書を出し、必要な事項に関しては職員同士で検討し今後の事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	何度が不定期に職場内で教えてもらっている。連絡対応方法はマニュアルがあり、各自読み確認をおこなっている。今後は定期的に外部の研修も取り入れていきたい。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内で訓練をおこなっているが、地域住民による参加、協力を受けての避難訓練はしていない。消火器や避難路の確保はしており、自治会長からの助言により非常用飲料水は準備している。夜間など職員が手薄になることも想定し近所の方の協力が得られるように訓練をおこなう必要はある。		地域の方の協力を得ての訓練が出来たらと思う。飲料だけでなく、食料も準備したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人一人に起こりえるリスクに対しては把握できているのではないかと思われる。ご家族に対してもその都度説明できている。会議で話し合い見直している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	検温のほかにトイレ介助、入浴、更衣の際など異変がないか確認している。異変を発見した場合は職員やNSに相談、報告し指示を仰ぐと共に、必要であれば受診している。経過についてはご家族への連絡を含め記録に残している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されるときにシートがついているので個人ファイルに収め、いつでも確認できるようにしている。解熱剤や風邪薬などの処方時は服薬後の状態などを担当看護師に連絡するようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常の食事や水分等で自然排便が出来るように工夫している。またトイレでは腹部マッサージ等をおこなったり、活動に関しても歩行を促すように配慮している。下剤を服用している方は多いが排便状況を医師や看護師に伝えることで量の調整は個別にされている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全員実施している。基本的には本人にしているが出来ない部分のフォローを職員がおこなっている。義歯についても本人での管理が出来ない方は職員が対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量をチェックシートにし把握できるようにしている。その方に合わせた飲み物、食事をお出しするようになっている(ミキサーにかける、ゼリー状にする、できない部分の食事介助をする等)。個別に一日の総カロリーを出し、今後の食事内容を検討することなどもおこなっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日常の手洗い等は励行するようにしている。感染症対策のマニュアルは職員全員が読んでおり、季節に応じて対策の確認をしホーム内で流行することがないように取り組んでいる。今後も定期的に勉強していきたい。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は消毒液につけたり、熱湯消毒をしたり、食器乾燥機にて菌が残らないよう努めている。冷蔵庫メニューとして食材を整理する日を設けている。賞味期限の確認に努力している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲に花壇・畑をつくり地域の人に来ていただきやすい雰囲気を作っている。入居者様にも目で楽しんだり収穫を楽しんでもらえる工夫をしている。玄関に入ったときに明るさやにおい等が不快に感じないように清潔さを保ちたい。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用している家具は家庭用のものを選び、緊張感を緩和できるように工夫している。また、季節の花を飾るなど季節感を感じたり和めるようにしている。できるだけ生活感が感じられるように配慮しつつ清潔感も保っていききたいと考えている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓だけでなく、別のソファや玄関前の椅子を利用し思い思いに過ごせるように工夫している。ソファでは気に入った入居者同士が話をしていることがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が混乱する事無く、且つ居心地良く過ごせるよう家具の配置は自宅に居住していた時と同じにしてある。家具も使用していたものを持ってきていただき今までの生活環境となるべく変わらないように配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替え、温度調節、換気には気を配っている。空調の風が入居者に直接当たらないようにし、職員の感覚ではなく入居者の状態にあわせて調整を図っている。ただ冬季の間の湿度調整は加湿器を使用しても難しい。今後こまめに対応していきたい。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	回る椅子、回らない椅子があり、それぞれの入居者の身体状況に合う椅子に座っていただいている。家具も転倒する危険がないかを検討し配置を考えている。物干しや台所などは入居されている方にも使いやすいものであると思う。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室、トイレにプレートを付け、自分の居室やトイレの場所がわかりやすいようにしている。混乱が生じた時の対応として個別の対応をおこなっているが視覚から入る情報を整理できるような環境の調整を速やかに図れるようにしていきたい。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴やおやつタイムをホーム外でおこなうなど入居者様に楽しい時間を過ごしてもらっている。車椅子を必要とする方でも出来る限り外気に触れることが出来るよう支援している。花壇の手入れなども職員と一緒にこなしている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームどんぐり庵
(ユニット名)	みみこ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県厚木市飯山2237-9
記入者名 (管理者)	住谷 博実
記入日	平成 20年 9月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者様が住み慣れた地域の中で最期まで生活が送れるような理念作りをし、ホームの玄関に掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時にかみくだいて話をし、日常の業務においてもミーティング等で基本に戻るよう話をしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族や地域の方からの問い合わせには時間をかけておこなっている。また、見学も自由にしていただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関先に花を植えたり清掃を行い、気軽に訪問しやすい環境を整えている。近所の散歩をする時にはあいさつをしたり、年末のもちつき行事の時には近隣住民にも声を掛けている。また、野菜の育て方について入居者と一緒に、住民に尋ねることもある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の夏祭りでは、子供御輿のホーム訪問や、夜の祭りに参加して交流を深めている。どんど焼き、ミニデイなどの地域行事にも積極的に参加し、また地元の人々の協力を得てつながりを持つことができている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を利用して、自治会や包括支援センターと協力して、認知症の勉強会が開けないか検討している。また、地域の行事に独居で参加できない高齢者を迎えに行ったりといった支援ができないか検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の低下を防ぎ、さらなる質の向上につながるように、全職員で自己評価に取り組み、現状を見つめ、課題を洗い出し、ミーティング等で具体的な対応策について検討している。サービスについて総合的に、客観的に見つめ直せる機会として、有効に利用している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を資料に掲載し、ホーム内での活動について報告をすることで、参加された方が理解しやすいように工夫をしている。最近では防災に関して意見を頂き、飲料を用意したり、避難方法の確認等を行なった。また、地域の方に認知症の特徴について知って頂く活動を協力して行なう予定である。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の研修会に参加したり、運営推進会議以外でも担当者と話をする機会を持つことは出来ている。それによりサービスの質の向上に取り組んでいると思う。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修やミーティング等で学ぶ機会はあるが、具体的な活用には至っていない。入居前は独居であった方もいるので今後は具体的に検討していきたい。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で高齢者虐待防止関連法について学んでいる。また、事業所内での言葉の使い方等、虐待につながる可能性のある対応についてはその都度個別に指導している。		マニュアルを用意する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の時も時間をかけ理解していただけるように説明をおこなっている。一方的に話してしまうのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するように配慮している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時の職員とのやり取りを記録に残している。また、ご意見シートで寄せられた意見や外部評価のご家族アンケートの統計等を利用し反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年2回のどんちゃんダイアリーという活動報告書を家族へ送っている。また、健康状態や金銭に関しては毎月書面にて報告を行なっている。電話連絡、面会等も適宜利用して報告を行なっている。職員の異動に関する報告は行なっていない。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時にはできるだけお話を聴くように心がけている。その中でお聞きしたことは朝のミーティングで職員にも報告し、重大な事項に関しては全体ミーティングで話し合うようにしている。それらは記録に残しその後も活用できるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心がけている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せるようにし細かいことは言わず見守るようにしている。また、提案等があれば積極的に採用している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日ごろより人員を多く当てるようにしている。他、土日やイベント時には職員を調整し対応している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>3年半が経過し長く勤務される職員が増えてきた。日ごろから異動や離職が最小限になるよう努力している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れたいと感じていることです。外部評価の事項にも職員全員が取り組めるようにし、他研修にも参加を促し対応している。現在OJTについてプログラム作成中。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の集まりなどにも積極的に参加している。管理者だけでなくほか職員も参加できるように配慮している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日ごろよりよく話を聴くようにしている。食事に行く機会をつくったり、その月の休みの希望もできるだけ添えるように配慮している。普段の勤務でも休憩を取れるようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全体ミーティング等に出席し勤務態度や日ごろの様子を把握するように努めている。その中でそれぞれがやりがいをもち仕事に望めるように工夫している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者、計画作成者、フロア担当者などが入居前に必ず本人と会い話をうかがっている。情報シートを作成しアセスメント等も事前に職員が見ることが出来るようにしている。入居後もかわりを持てるように積極的にコミュニケーションをはかっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談や問い合わせには十分時間をとっている。出来ること、出来ないことをしっかり信頼関係を作り、後のトラブル防止にもつながると考えている。それらは情報シートにも盛り込んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	月に平均1～2件程度入居の問い合わせ等がある。電話での相談や直接見学に来られることもあるが入居希望をされている場合など他施設の空き状況を確認したり、状況に応じては有料ホーム等へ体あわせをすることもある。当ホームに入居とならなくても相談に応じ、対応するように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的にはご家族から説明をしていただいたうえ入居されているが、必ず入居前には本人にも会いお話をうかがいなるべく知っていただくようにし安心してホームに来ることができるよう配慮している。入居前の見学も自由にさせていただいている。その方によっては入居後のご家族の面会を頻繁にしてもらったり電話をすることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	文化的行事では由来の説明をして頂いたり、漬物や菜園を作る時には過去の知識を用い、入居者同士で話し合いながら取り組んでいる。誕生日では各入居者からお祝いの言葉を述べてもらい、関係性が築けていると実感することがある。また、自由な意思が表出できるように話に耳を傾け、職員主導で物事を進めないように注意している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年2回ではあるが、家族参加の行事を行っており、ほぼ全てのご家族の参加を頂いている。また、面会時には、その都度入居者の様子を伝え、対応困難な状況があれば、話し合いの時間を作りアドバイスをもらうこともある。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	受診した際の報告や、日中の生活を記したご様子シートを利用し、ご家族が入居者の様子を細かく理解できるように配慮している。また、ご家族での外出機会も多く、続けて頂けるように、帰宅後の満足気な入居者の様子などを後日報告している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの近所の商店や、知人のいる市内の郷土資料館など、各入居者様に合わせて、事前に連絡を取り訪問する機会を設けている。また、散歩の時に実家へ行くルートを通ることもあり、関係性が途切れないよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活でできること全てにおいて、職員と入居者が一緒になって取り組めるよう配慮している。誕生日ではケーキを皆で作ったり、各行事の飾り付けの作成や準備を分担して同じテーブルで取り組むこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ、サービス利用終了後に継続的な関わりを必要とされるケースはないが、必要とあれば関わりを続ける準備はできている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の価値判断で考える事のないように、外出希望や、飲み物、食事メニューの希望を聞き、可能な限り沿う形をとっている。言葉だけでなく、しぐさや外出先での表情などを細かく見て、本人の理解に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、おおよその生活歴や、独自の価値観等の把握に努めている。また、入居後も本人や家族からその都度話を伺い、総合的な個人の理解につながるよう取り組んでいる。それらを記録に残し活用している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	観察や積極的な関わりを通して、入居者の状態について把握できるよう努めており、そこで得た情報は共有して日々のケアに活かしている。記録の利用や、申し送り、勤務中に少しでも話し合うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者個別に課題となるものを検討しており、介護計画に即していない事でも、入居者本人に必要なと思われる支援は積極的に実践している。その際にご家族や医療機関とも相談し、より本人に合った質の高いケアができるよう取り組んでいる。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のミーティングで介護計画に基づいた検討を行い、新たな計画の作成をしている。緊急性を要する事象が起こった時は、職員間、医療機関、ご家族に連絡し相談しながらその都度対応について検討し実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分・食事量・血圧・排泄・体温等、入居者の様子を細かくチェックしており、それを利用して次の日の支援を検討している。また、特徴的な出来事や、変化の様子は個人記録に詳細に記載し、日々の対応の検討を行い支援に利用している。ケアプランの検討にもこれらの記録を用いている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事摂取が困難になってきた方に対し訪問栄養指導を取り入れた例がある。今後も状況に応じて介護保険サービスを組み込んで対応していきたいと考えている。情報収集し、必要時に提供できるように準備したい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議をとおして、民生委員の方や、警察官等から協力を得られる体制を作っている。地域でおこなうミニデイへの参加をさせていただき交流や連携を図れるように努力している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者との連携を図っており、今後必要に応じて利用できるよう準備は行なっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、個別のケースについて協同は行なえていないが、運営推進会議を通して、ご指導をして頂いている。また、地域に向けての活動を行なう予定ではいるが、未だ具体的に組み立ててはいない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の有無や今後の対応について確認をしている。これまでの医師に見ていただいている方に対しては日頃の様子をメモや口頭でご家族に伝え、受診がスムーズに運ぶよう配慮している。こちらで受診の支援をする場合には受診前後に必ずご家族に連絡し、状況を伝えるように徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在特に認知症専門医との協力関係は持っていないが協力医療機関において相談することはある。職員も勉強会や研修に参加し知識の向上に努めていきたい。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師に24時間いつでも連絡し、相談できる。なんらかの異常や事故の場合は必ず連絡し、判断を仰いでいる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は頻繁に面会に行き、状況の変化について病院関係者から情報を得ると共に、日常生活の情報を交換し安心して入院生活を送ることが出来るよう支援している。家族とも連絡をとりながら早期に退院が出来るように支援している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきたときに、現在の状態・予測されることをご家族に伝えこれからどこで、どのように過ごしてもらいたいかなど要望をうかがうようにしている。要望をもとに今後の方針を立てておりそれをご家族に伝え、職員間でもミーティングで話し合うことやプリントにし共有できるよう努めている。本人の状態に変化が見られるたびに話し合う時間を設けてい		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期を迎えた時は、本人・ご家族の要望を踏まえここでできること・できないことをその方に合わせて検討し取り組んでいる。協力医療機関とも連絡を取ることや看護師に相談し今後予測されることなどへの対応等についても事前に把握するように努めている。これからはもう少し細かくターミナルケアについて学習したいと考えている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族やこれまで支援してこられた方から本人の以前の生活習慣、好きなこと得意なことを聞かせていただくことや部屋の間取りを見させていただき、それまでの生活を続けられるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人のプライバシーを配慮するように、なるべく近くに行き声かけをしたり、場所を移動したりしながら対応している。さりげない対応を心がけているが、さらに他の入居者に気づかれない工夫や、本人の自尊心を尊重するようにし、プライバシーを損ねないようにしたい。個人情報の取り扱いにも注意して対応している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の得意分野など力を発揮できる場面を設けたり、説明をしたりしながら最終的には入居者自身が納得して決定できるよう支援している。今後も個人の希望や特技などを見出し、自己決定や希望を選びやすい場面を増やしたい。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>おおよそ一日の流れを決めてあるが職員のペースで物事を進めてしまわぬよう心がけ、個人のペースや希望に沿えるような生活が送れるように支援している。起床、就寝時間等は個人のペースに合わせており、出来る限りそれぞれの希望を優先して関わっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者の好みを尊重して、化粧や服選びなどの身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。理容・美容の本人が希望できる方は望みの店に行けるようにしている。日々職員が配慮を怠らないようにし、入居者の身だしなみやおしゃれの意欲を保てるようにしたい。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員が作業の順序を説明しながら入居者が混乱しないように、能力に応じた食事の準備や片付けをして頂いたりしている。入居者と同じテーブルで一緒に職員全員が同じものを食べている。献立は職員が決めてしまっているので、今後は入居者の好みをもっと取り入れていきたい。苦手な食事があり食が進まない時は、別メニューで対応することもある。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人が好む味覚に合わせてたり、好物などを状況にあわせて日常的に取り入れるように支援している。今までお酒を飲んでいた方にお出しすることもある。これからも楽しめるよう取り入れて継続したい。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表や本人のサインを元に案内しているが、失敗してしまってもさりげない対応を心がけ、他の入居者に気づかれないようにし、自尊心を傷つけないように配慮するように努めている。不要な場合はリハビリパンツをはずせるように関わっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者全員が平等に入浴できるように、予定は職員でおおよそ決めてしまっているが、その日の一人一人の状況に合わせた対応ができるような支援を試みている。入浴を拒む人に対しては言葉かけの工夫や本人に合わせた対応を心かけている。今後は出来る限り時間帯などの希望を取り入れるよう工夫したい。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせて、個別にゆっくりと自由に休息が出来るように対応したり、夜間に安眠が出来るように個々の生活リズムを把握するよう心がけ支援している。これからは安眠や休息が安心して出来るような環境作りをおこなっていききたい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれ食事の仕度や掃除、洗濯干しなど得意なことを生かした役割を支援し、職員はさりげないサポートをするよう努めている。一人の力ではおこなえないこともどこを支援すればおこなえるのか等を見極めながら一緒におこなえるように支援している。今後さらに充実させたい。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望、力に応じて買いたいものを買うことが出来るようにお金を使える支援している。実際に自分のお金で買ったものについては大事にしたり、自分のものであるという意識が強い場面に出会っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけにしないように買い物や散歩など職員と一緒に外へ出る機会を作っている。出かける場所も一定にならないように希望に沿って出るように配慮している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	頻繁ではないが記念日には外出や小旅行、お花見を企画し、外出の機会を設け支援している。また行事のときはご家族も参加していただけるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で直接お話していただいたり、年賀状を送れるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会を歓迎している。面会時に事業所側の予定があれば、可能な限り変更し面会時間を大切にしている。また訪問中はフロアで過ごしたり、居室で過ごしたりとそれぞれの方に合わせて時間を過ごしていただけるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを読み、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全のため見守りを徹底するようにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人一人の外出の傾向の把握に努め行きたい時に外出する支援をおこなっている。鍵を掛ける事は拘束につながることを職員は理解しているが、頻繁に外出希望があり、どうしても職員が同行できない時間帯は、安全確保のためエレベーター、玄関の鍵をかけることがある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともに職員は入居者を見守りやすい位置にいるように配慮している。台所からも居間や居室のほとんどを見渡すことはできる。音の把握もし安全に過ごせるよう努力している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要なものは、手の届かないところ、または保管庫へ管理。包丁等は見守りをして使用してもらう。物品が各入居者にとってどのような意味を持つのか検討し、出来る限り使用、管理して頂けるよう支援している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間で情報を共有したり、ミーティング等で防止策を話し合う等努めている。事故が起こった際には、報告書を作成し、問題点について即座に検討する事で再発防止の取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルの作成と電話連絡網が作成してあり表示してある。実際に事故等が起きた場合は上司・NSに相談し、指示を受け対応している。今後は病院が終了していたり、夜間に急変したら救急車が来るまでに、怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等の対処方法や救急救命方法等の学習や訓練を身に付けておかなければならない。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所だけの訓練は、ベランダに誘導するよう避難訓練をした。地域住民が参加して避難訓練等は実施していない。消火器の設置場所の確認、設備の点検、非常用食品、飲料備品、毛布等も準備をしておかなくてはならない。		地域の避難訓練には参加して、実際に使用方法を体験する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ミーティング等で一人一人の状況について確認しあう時間を設けており今後起こりうることも視野に入れて検討するようにしている。また話し合った内容に関してご家族が来られた時にお話するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。一日2回バイタルチェックをおこなう他、入浴時や排泄時等にも全身の観察をしている。体重測定も月に2回実施。大幅な増減に注意し原因を調べるなど体調管理に配慮している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量については薬表をもとに理解するようにしている。その薬表も確認しやすいように個人ファイルに閉じている。確実に服薬の支援をおこなうほか、服薬後の状態変化にも注意を払っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食品をとることが出来るよう心がけるほか、乳製品を1日1回摂取する、水分を十分に摂るなどの工夫をしている。食事のほかにも歩行練習、ストレッチなど活動の支援をしている。また、腹部マッサージをしたり、食後トイレに座る習慣をつくることも行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを促し、おこなっている。磨けない方へはガーゼ等で口腔清拭をしたり、うがいをさせていただくなど工夫し口腔内の清潔を保っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃から食事と水分摂取量は確認しているので、把握は出来ている。また一人一人の嗜好も知るよう努め、それを活かして食材の準備をおこなっている。普通食の摂取が困難になった方に対して訪問栄養指導をいれ食事への助言をもらい形態を変え再び摂取可能になっている事例もある。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルはあるが季節に応じて食材の管理や掃除方法、予防接種などの確認をおこなうようにしている。ミーティングで周知するほかプリントし職員全員が理解し実行できるように努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のための食器や調理器具の扱いを決めており徹底している。また、1日の料理を少量冷凍して保管している(食中毒が発症した際に参考にする為)。食材のまとめ買いを避け、冷凍したものも1週間をめぐりに処分している。食材に関してはできるだけ日本の物を購入したい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花壇を造り、季節の花や野菜を入居者と共に植え、毎日の水やりや草取りをし、花を楽しみ、野菜の収穫をしている。		玄関の段差があるため、車椅子の移動が困難なのでスロープを設けたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台には入居者が散歩などで摘んだ季節の草花を飾り、皆様も楽しんでます。食堂(ホール)では、季節の行事(ひな祭り、七夕等)日本の行事を大切に、それに合った飾りを一緒にしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入浴はお一人ずつして頂き、リラクスの時間を過ごして頂いています。フロアの一角にソファを置いてそれぞれくつろいでいたり、エレベーター前の椅子も活用し一人になれる空間を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものや、ご家族が選んで頂いたものを安全を配慮しながら人形を置いたり明るくなるよう工夫をしている。入居された時と現在の生活状態ではあまり必要ではないようなものもあるようです。ご本人、ご家族等と相談しながら、ご本人が心地良くお過ごしできるようにしたい。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調の吹き出し口の下には入居者の席等が当たらないように調整し、エアコンの清掃もこまめに行っている。冷暖房は入居者様お一人お一人に対応できるよう1日の中でもこまめに調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレ等には手すりを設け転倒防止に心がけている。座ったままで洗濯物を干せるように高さを調節し意欲を促している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室ドアにはそれぞれの名前プレートを付け、分かりやすくするようにしています。なお、ご本人の好きな絵なども貼って区別をつけています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに野菜を植えたりし、日々成長を楽しみ、水やり等自由に出来る。玄関前などにテーブルを出しおやつを食べることもあり近いところでも外に出ることは意識して関わっている。今後はスロープ等を準備しさらに出やすくなるような工夫をしたい。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)